野田小学校　校長室だより

ふじだな



No.77
令和８年１１月１０日
大阪市立野田小学校
校長　川辺　智久

一人一人が安心してすごせる学校をめざして ②



前回は、「違っていても、どうしたら一緒にできるかな？」という問いを投げかけた全校朝会での話をしました。今回は、10 月 19 日から 23 日までの「いのち・いじめについて考える週間」に行った学級での取組みを紹介します。子どもたちは、教材に登場する人物の気持ちや行動について話し合いながら、友達との関わり方や、自分にできることを考えました。

■ １年生「かずやくんの なみだ」 ～友達と仲よくすごすために～



１年生では、「かずやくんの なみだ」というお話を通して、友達と仲よくすごすために大切なことを考えました。

お話に登場する和也くんは、友達から鬼ごっこに誘ってもらえず、涙を流します。子どもたちは、いつも一緒に遊んでいる友達のことを思い浮かべながら、「一緒に遊びたいのかな」「声をかけてあげたらいいのに」と、和也くんの気持ちに寄り添って考えました。また、涙を流す和也くんを見た「ぼく」の気持ちについても、友達と意見を伝え合いました。さらに、自分たちが友達と声をかけ合って遊んだ経験も振り返りながら、みんなが楽しくすごすためには、どんなことが大切なのかを考えました。

友達の気持ちに気づき、自分から「一緒に遊ぼう」と声をかけること。そんな小さな思いやりが、誰もが楽しく、安心してすごせる学級につながっていくのだと思います。

■3年生「さばきの目」ではなく「おうえんの目」で



３年生では、「さばきの目」と「おうえんの目」をテーマに、友達への見方や関わり方について考えました。例えば、友達が何かに失敗したとき、「なんでできないの？」「また失敗したの？」と、できなかったことばかりを見てしまうことがあります。これが「さばきの目」です。一方、「頑張っていたね」「次はきっとうまくいくよ」と、友達のがんばりやよいところを見つけようとするのが「おうえんの目」です。同じできごとでも、どんな目で見るかによって、相手にかける言葉は変わります。友達の失敗を責めるのではなく、頑張りを認め、励まし合うことができれば、誰もが安心して挑戦できる学級につながります。子どもたちには、友達のよいところを見つける「おうえんの目」を大切にしてほしいと思います。

（※裏面に続く）

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

（※表面より）

■ 友達を大切にすることは、毎日の小さな行動から



１年生と３年生の学習に共通しているのは、友達の気持ちを考え、温かく関わろうとすることです。１人でいる友達に「一緒に遊ぼう」と声をかけること。失敗した友達に「大丈夫だよ」と声をかけること。どちらも特別なことではありませんが、そんな小さな行動が、友達に安心感を与えることにつながります。友達を大切にするとは、何か大きなことをすることではなく、毎日の生活の中で、相手の気持ちを考えて行動することなのだと思います。

次回は、５年生と６年生の道徳の学習を通して、いじめを見過ごさないことや、本当の友情について考えた子どもたちの姿を紹介します。

のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。
随時更新していますので、ぜひご覧ください。

【秋の遠足（３年生：海遊館）】１０月２日（金）

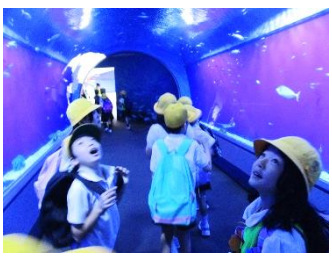
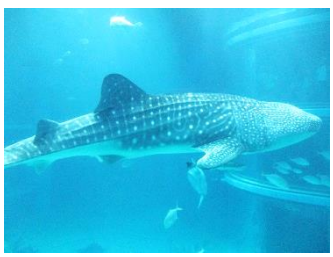
３年生は海遊館へ出かけました。地下鉄では、駅員さんに「おはようございます」「ありがとうございます」と気持ちのよいあいさつをし、車内でも周りの方のことを考えながら落ち着いてすごす姿が見られました。

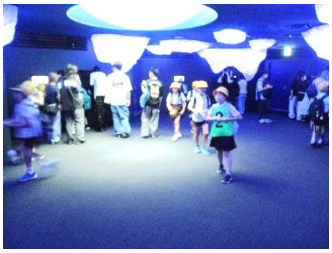
海遊館に到着すると、まずは「海遊館アカデミー」でジンベエザメについて学びました。飼育員の方のお話を聞きながら、その大きさやエサの食べ方などを知り、驚きの声をあげる子どもたち。続く館内見学では、大きな水槽を泳ぐジンベエザメやエイ、色とりどりの魚たちに目を輝かせていました。「あそこにいるよ！」「こっちにもいる！」と、発見したことを友達と伝え合いながら、海の生き物の世界を存分に楽しみました。お昼は、海を眺めながらのお弁当。行き交う船を眺めたり、海風を感じたりしながら、楽しいひとときをすごしました。

たくさんの発見や感動に加え、公共の場でのマナーを守り、周りの人を思いやって行動する姿にも、３年生の成長を感じました。楽しむときは思いきり楽しみ、周りの人への心配りも忘れない。そんな子どもたちのすてきな姿が印象に残る遠足でした。








※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。